

ドラマデイ

丁 中嶋 洋子

オーストラリアの首都、キャンベラの公立小学校に、四人の子供を一年間、通学させる機会を得た。小学校のなかで、低学年の部は、それだけで独立したまとまりをもって学校生活が展開される。一年の末の娘だけは、このコースに在り、ドラマデイもまた、上の三人の子とは違う日時に、違うテーマで演出される。

この低学年のドラマデイに魅せられた私は、一日目と二日目と、同じものを二回見て、なお、充分楽しんだのだが、とりわけ先生方の考え方や、その日の動き方に興味を抱いた。

ミセス・ミラーは、低学年の部の責任者である。手入れのゆき届いた、まっすぐな金髪を短かく、しかし、きっかりと毛先をカールさせた知的な雰囲気の方である。モスグリーンのセーター、全く同じ色の仕立の良いスカートに茶色のブーツが、背すじの伸びた姿によく映え、若さにはない落ちつきを感じさせ、タクトを振って、澄

んだソプラノの音(ね)を指揮するときは、キラキラと輝く華やかささえ漂わせたスマートな「副校長」でもある。

ところで、先生方の決めた今年のドラマデイのテーマが、なんと「フード」であるを知ったのは、会場の入口で、上級生の係の子に「ころぞし」のードルを払って、手刷りのプログラムを手にしてからである。二年生の演ずるチビっ子中年夫婦がナレーター役目を演ずるなかで、オールドブルからスーパ、エントレ、メインコース、デザートに至るフルコースが、劇や踊り、歌で目眩めく展開される。デザートは、あの、二人でお茶を、の甘く、優雅なメロデイである。こうして、おなかいっぱい詰め込んで充分満足した筈の中年夫婦であるが、考えすぎだろうか。夫婦の会話を忘れた、何かもの足りない男が、ハンチングをかぶって、町の酒場にひとり繰り出す。編みものの手を休め、眼鏡をずらして見送る女。このラストシーンを追うように、ミセス・ミラーの指揮する、町の酒場なるテレビのコマーシャル・ソングを、小さな子供たちが異様に高らかに歌い

あげる。ミセス・ミラーの「この緒にどうぞ」の一言に、父兄は楽しげに、リズムカルに和し、ドラマデイの最後が充分盛りあがるのだ。二日目のこの合唱のあと、先ほどから時間を見計らって、私の斜め後に控えていた校長先生が、軽やかに前に進み出、舞台上に片足のせて、ミセス・ミラーはじめ先生方の苦勞を大きく、しかし、あつさりと摘う。ことを仕あげたミセス・ミラーの表情は、前日とうって変った華やかなサーモンピンクの装いにもまして、一層すがすがしく魅力的である。続いて会場一同の拍手が鳴り響くのである。ここに至って私は、上級生が、入口でお札をヒラヒラさせて、金集め、をしているのを見たとき以上に呆気にとられ、圧倒され、続いて小さくなっていく。

こうして、大いなる余韻を残された私は、私なりにひとつの結論を出すに至る。オーストラリアの先生方は、というにはあまりに極論に過ぎるが、あえて暴言すれば、楽観的である、先生方の人生そのものが楽観的であるという結論である。父兄もまた学校に期待しすぎる事もないのだ。そうでなくて、テーマといい、コマーション・ソングといい、ときにおおらかな笑い声のたつドラマデイは成りたないであろう。これについて、何回か来日して日本の教育事情にもくわしい、カリキュラム開発センターの所長にお会いしたとき、私の感想を述べてみると、大いに同意された事からも、全く的はずれではないような気がする。

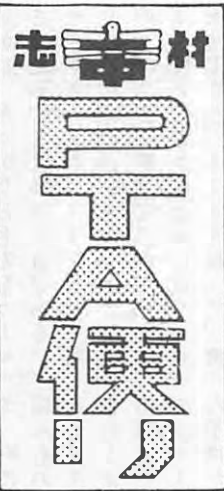
楽観的であるということは、多分、日本人にとって、より困難な事であり、だから日本人は、したがって先生も、父兄も生徒も、何かに向って、生まじめに、がんばらなくっちゃ、気が済まないのだ。この悲壮感が高度成長の原動力であったろうが、いっぽう、学歴偏重の風風は入試の過熱化を呼び、統いてこのルートに乗れない大衆の非行青少年の群が溢れ、学校は混乱の渦中に巻きこまれて久しい。

ともあれ、もし、日本なら、このドラマデイは、幾重もの意味で確実に父兄の非難を呼ぶであろう。

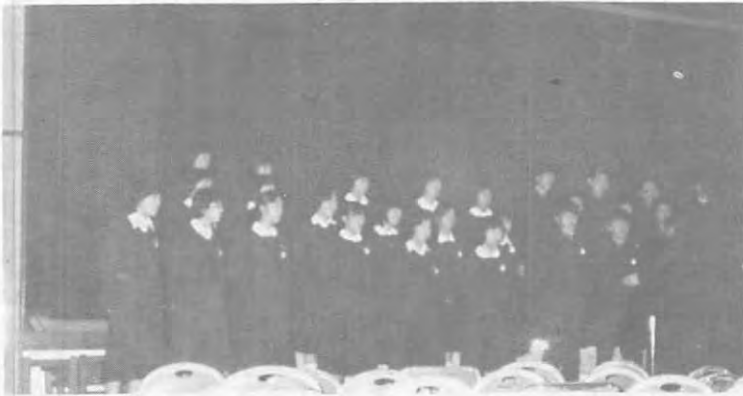


文化祭

— 歌声に青春の夢はせて —



板橋区立志村第一
中学校PTA広報部
電話(960)8786



文化祭の成果

丁 柴崎和夫

十月初めの運動会、続いて中間テスト、そして十一月四、五日の文化祭と、二学期の行事のために忙しい中にも充実した学校生活がおくられました。運動会や文化祭は学校の行事であるとともに、保護者の方々の参加が重要な意味をもっております。

今年の文化祭は学級の合唱コンクールを中心に、発表や展示が行われましたが、大げいの家庭の方々が来校され、生徒の活動ぶりをみていただき感謝しております。

またPTAの展示場には多数の保護者や先生方が見事な作品が並び、感嘆させられました。生徒たちに対して立派な作品を通して、無言の励ましを与えてくださいました。

茶席にも大げいの生徒が参加し、古きよき伝統の発見ができたのではないかと思います。文化祭を通して得たもの、努力、協力、連帯、勤労、喜びなどをこれらの活動に期待し、PTAの参加、協力を深く感謝します。



撮影 P 石田

上 PTA作品

左 お茶席

